

(別表第1の4)

事業所名 グループホーム あゆみ

目標達成計画

作成日: 平成 21 年 9 月 7 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	目標達成状況(任意)
1	2	周辺が田畑であり、近隣住民とは挨拶程度の付き合いのみであり、地域の役員の方、いきいきサロンの方など特定の方との付き合いになっている。	介護の相談だけでなく、普段でも気軽に立ち寄って、もらえるホームにしたい。	地域の催し物に積極的に参加、顔見知りを増やし、ホームでの行事に招待する。お礼状などの手紙で交流を深める。	6 か月	
2	4	運営推進会議のメンバーが固定化している。様々な職域の方からの意見が得られていない。	消防、警察など専門職の方にも出席していただき、サービスの質の向上に努める。	会議のテーマを決め、関係者に参加を呼びかける。消防など、防災の講師を依頼するなど会議の場で具体的に提案していく。	6 か月	
3	10	入所が長くなると、家族が入居者の生活をイメージしにくい、お互いの想いが伝わらず、一方通行になっている。	家族、入居者、ホーム、三者の想い、情報を共有することで、それぞれが理解し、入居者が質のよい生活が出来るようにする。	入居者のホームでの生活、想いを面会時に伝える。月に一度郵送している「あゆみ便り」を利用し、問いかけて、情報を聞いたり、また、ホームでの情報を伝え、入居者のイメージを共有する。	6 か月	
4	33	重度化、終末期に向け、経験不足の職員が多く、十分な情報共有が計れ支持が行えない。	全職員が情報共有を計り、家族と共に、入居者を支えられるように経験を伝え、看取りに向けた方針を理解できるようにする。	ホームでの勉強会、経験者からの実体験を聞き、看取りに対してのイメージをもてる。重度化した入居者と関わる時間を多くすることで意識向上につなげる。社会福祉協議会、県が行う勉強会に参加、知識向上を計る。	6 か月	
5	49	現在は職員が支えている外出支援であるが、今後ボランティア、地域の人々に早めに外出支援を呼びかけることが必要である。	一人ひとりの希望に添えるように戸外に出かけられるように支援できるようにつとめる。	運営推進会議などで、地域の人々に早めに呼びかけ協力してもらおう。ボランティア確保もする。また、ご家族の協力をえるために、話し合い、同意をえる。	6 か月	

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。

注3) 外部評価結果の通知を受けた日から概ね30日以内に評価機関に報告してください。

注4) 目標達成状況は任意となっております。期限に定めはありませんので、適宜評価機関に報告してください。